

2022 年卒

外国人留学生の就職活動状況に関する調査

2021 年 8 月発行

新型コロナウイルス流行が長期化する中、外国人留学生はどのように就職活動を進めているだろうか。ディスコではキャリアス就活 2022 に会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・・・・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・・・・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点	・・・・・・・・ P 3
4. 日本企業に対するイメージ	・・・・・・・・ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界	・・・・・・・・ P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	・・・・・・・・ P 6
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況	・・・・・・・・ P 7
8. 就職活動開始時期	・・・・・・・・ P 7
9. 7月時点の就職活動量と内定状況（※）	・・・・・・・・ P 8
10. 新型コロナ禍による就職活動への影響	・・・・・・・・ P 9
11. 企業に評価してもらいたいこと	・・・・・・・・ P 10
12. 就職活動の情報源	・・・・・・・・ P 10
13. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報	・・・・・・・・ P 11
14. 留学の満足度	・・・・・・・・ P 12

※「インターンシップ（就業体験を伴う複数日程のプログラム）」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

《調査概要》

調査対象：2022年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2021年7月2日～18日

サンプリング：キャリアス就活2022に会員登録している外国人留学生2,382人

回答者の属性 単位：人

文系	243
理系	113
合計	356

大学院	200
学部	156
合計	356

国公立	165
私立	191
合計	356

●調査時の所在地

日本	母国	合計
349	7	356

●出身国・地域

中国	台湾	韓国	東南アジア	その他アジア	ヨーロッパ	北米	南米	その他	合計
235	16	37	47	12	3	2	2	2	356

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 2022 学生モニター調査」（2020年11月、2021年1月、3月、4月、7月調査）より

※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2021年4月発行）より

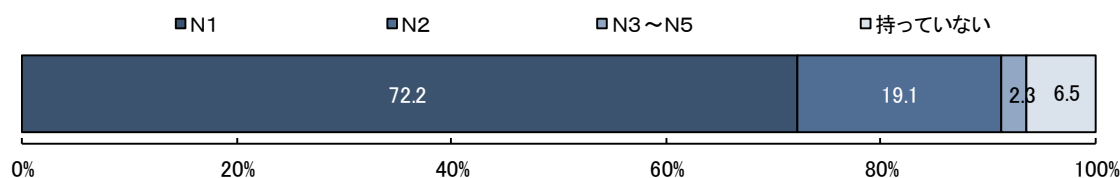
1. 現在の日本語力

まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(15.7%)、「ビジネスレベル」(59.0%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は 7 割強に上る (計 74.7%)。JLPT (日本語能力試験) のレベルについても、最高レベルである「N1」の保有者は 7 割を超える (72.2%)。企業が求める日本語コミュニケーションレベルや入社基準に達している者は多い。

現在の日本語力

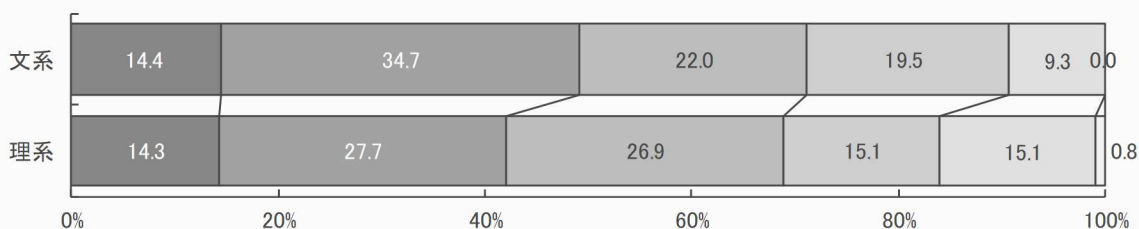


保有 JLPT(日本語能力試験)レベル

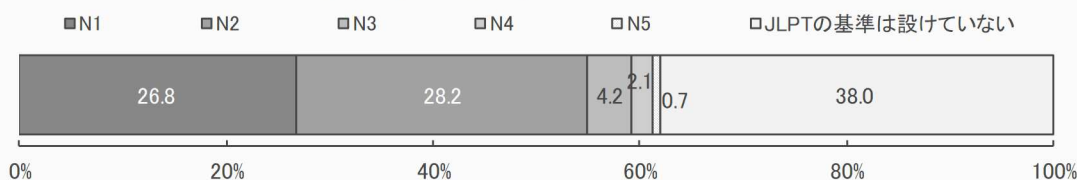


【参考】 企業が外国人留学生に求める日本語コミュニケーションレベル(内定時)

■ネイティブ相当 ■ビジネス上級レベル ■ビジネス中級レベル ■ビジネス初級レベル □日常会話レベル □ほとんど求めない



外国人留学生採用時のJLPTの入社基準



※「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」(2020 年 12 月)

■JLPT(日本語能力試験)とは？

日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。

【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。

【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

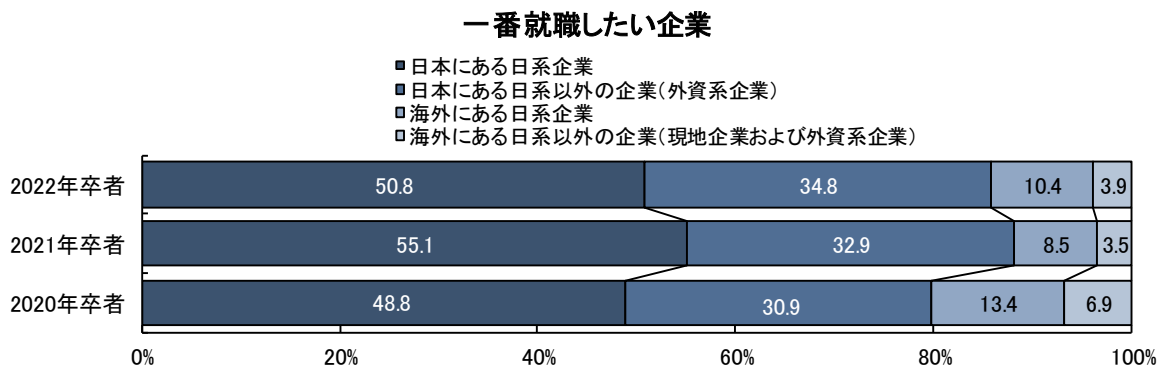
【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【N4】基本的な日本語を理解することができる。

【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

2. 就職したい企業の種類

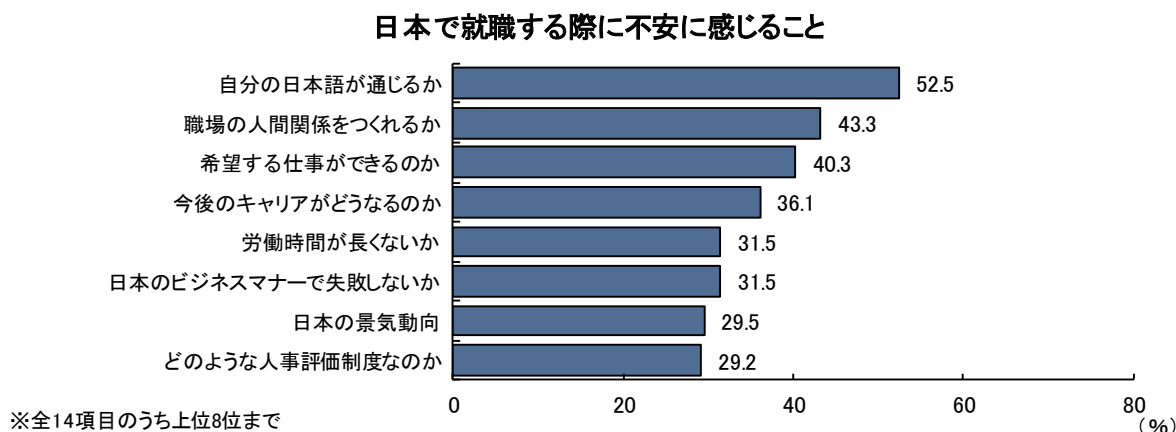
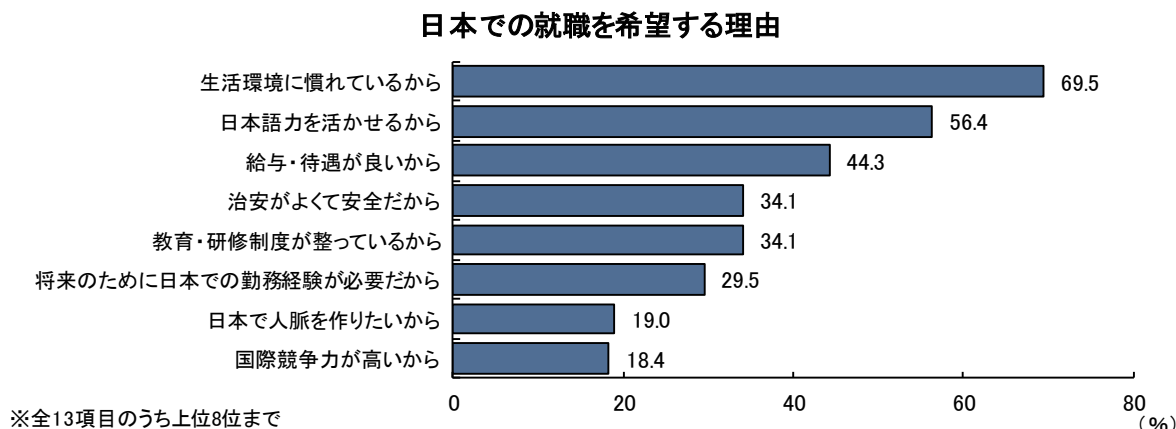
卒業後に就職したい企業の種類を尋ねた。「日本にある日系企業」(50.8%) が最も多く、「日本にある外資系企業」(34.8%) と合わせると、日本で働きたいと考えている外国人留学生は 8 割を超える (計 85.6%)。日本国内の新型コロナ流行は収束の兆しが見えないが、日本での就職を望む外国人留学生は依然として多い。



3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

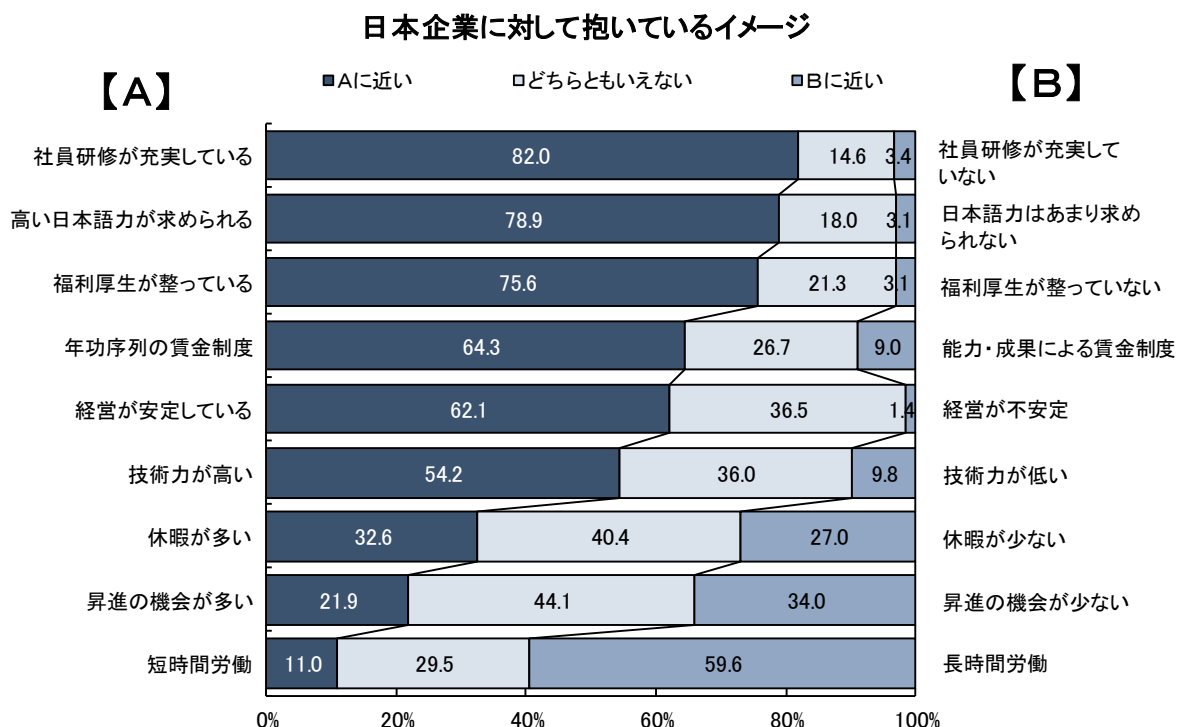
「日本で就職したい」と回答した外国人留学生に、その理由と、日本で就職する際に不安に感じることを尋ねた。日本で就職したい理由で最も多いのは、「生活環境に慣れているから」で約 7 割 (69.5%)。ここに「日本語力を活かせるから」(56.4%) が続く。

ただ一方で、不安なこととして「自分の日本語が通じるか」を選んだ者は過半数に上る (52.5%)。留学で培った日本語力を活かしたいと思う反面、ビジネスの場で通用するのか不安に思う者も少なくない。



4. 日本企業に対するイメージ

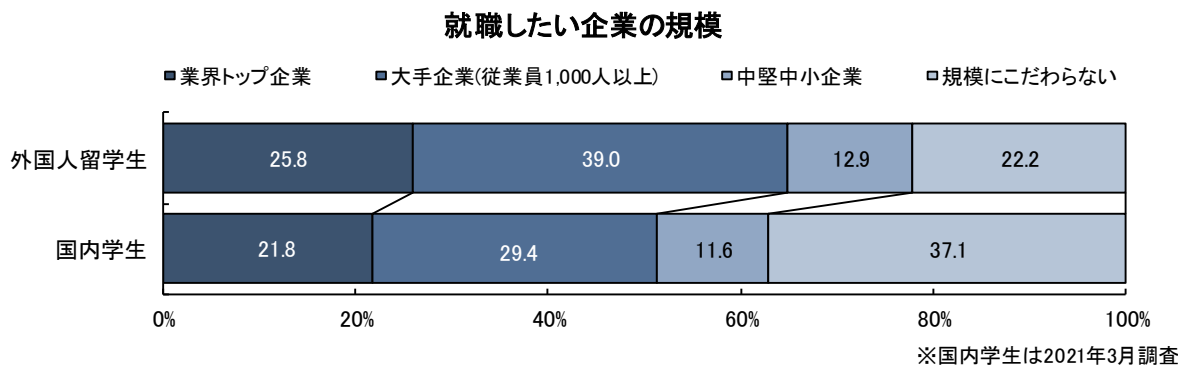
日本企業に対して抱いているイメージを尋ねたところ、「社員研修が充実している」(82.0%)、「福利厚生が整っている」(75.6%) などが多くのポイントを集め、安心して働ける環境があると捉えていることがうかがえる。2位の「高い日本語力が求められる」は8割近くが選び(78.9%)、就職活動で高い日本語力が求められたと感じる学生が多いことが推測できる。数字が割れる項目は少なく、外国人留学生が日本企業に対して持つイメージはある程度共通していると言える。



- 人に対する教育、研修制度が充実しているイメージ。人づくりの社会だと考えています。 <中国出身>
- 労働時間が長いですが、福利制度が良さそうだと考えている。 <ベトナム出身>
- 日本語力を求めている。 <台湾出身>
- 社員に大切にすることが多い。 <ベトナム出身>
- 日本の企業はダイバーシティが低いというイメージを持っています。 <中国出身>
- 上下関係が厳しいですが、チームワークがすごく完璧です。 <中国出身>
- 中小企業では、保守的なイメージがあります。 <中国出身>
- 日本企業では人間関係が難しそうです。能力より努力が重視されていそうです。 <ベトナム出身>
- 堅いイメージがある。ルールや規定を大事にしている。 <香港出身>
- みんながあるルールを守って動いている。革新性が足りないイメージがある。 <中国出身>
- 良いイメージ：仕事を真面目に取り組む。悪いイメージ：非効率的な場面が多そう。 <韓国出身>
- 経営面に関してはアナログスタイルが一般であり、デジタル化がまだ達成していません。 <ベトナム出身>
- 異動が多い、若手でも会社からチャレンジの機会をもらえる。 <台湾出身>
- 日本の企業はメンバーシップ型採用が多いことから、やりたい仕事を大学の専攻と関係なく自由に選べるので、挑戦したいと考えている。 <バングラデシュ出身>

5. 就職したい企業の規模と志望業界

就職したい企業の規模は、「業界トップ企業」(25.8%)、「大手企業」(39.0%)と、いわゆる大手狙いの外国人留学生は6割を超える(計64.8%)。国内学生(日本人学生)の計51.2%と比べて10ポイント以上高く、外国人留学生の大手志向の強さが読み取れる。日本企業になじみが薄い分、まずは知名度のある大手企業に目を向ける留学生も少なくないと見られる。



続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系の1位は「商社(総合)」(34.9%)。グローバルに活躍したい留学生に、毎年人気だ。理系は、1位「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(39.3%)、2位「情報・インターネットサービス」(36.6%)とIT業界が3割を超える。文系でも「情報・インターネットサービス」(26.5%)は2位、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(23.5%)は4位に挙がり、文理問わず人気が高い。

なお、国内学生(日本人学生)と比較すると、文系において差が顕著で、国内学生で1位の「銀行」は外国人留学生では9位、3位の「マスコミ」は16位。一方、理系はIT業界やメーカーが上位を占める傾向は共通している。

就職活動当初の志望業界(上位10業界)

(%)

文 系		理 系	
外国人留学生	国内学生	外国人留学生	国内学生
1 商社(総合) 34.9	1 銀行 25.4	1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 39.3	1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.7
2 情報・インターネットサービス 26.5	2 情報・インターネットサービス 16.2	2 情報・インターネットサービス 36.6	2 電子・電機 20.9
3 調査・コンサルタント 24.4	3 マスコミ 15.4	3 電子・電機 23.2	3 素材・化学 20.0
4 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.5	4 商社(総合) 15.2	4 自動車・輸送用機器 22.3	4 情報・インターネットサービス 19.1
5 医薬品・医療関連・化粧品 16.4	5 建設・住宅・不動産 15.1	5 素材・化学 21.4	5 医薬品・医療関連・化粧品 17.3
6 ホテル・旅行 13.0	6 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.0	6 医薬品・医療関連・化粧品 18.8	6 水産・食品 16.2
7 商社(専門) 12.6	7 保険 14.0	7 機械・プラントエンジニアリング 17.9	7 自動車・輸送用機器 15.8
8 自動車・輸送用機器 12.6	8 商社(専門) 13.9	8 調査・コンサルタント 16.1	8 建設・住宅・不動産 15.8
9 銀行 12.2	9 運輸・倉庫 13.9	9 水産・食品 13.4	9 機械・プラントエンジニアリング 13.7
10 電子・電機 12.2	10 官公庁・団体 13.7	10 精密機器・医療用機器 13.4	10 精密機器・医療用機器 12.6
		通信関連 13.4	

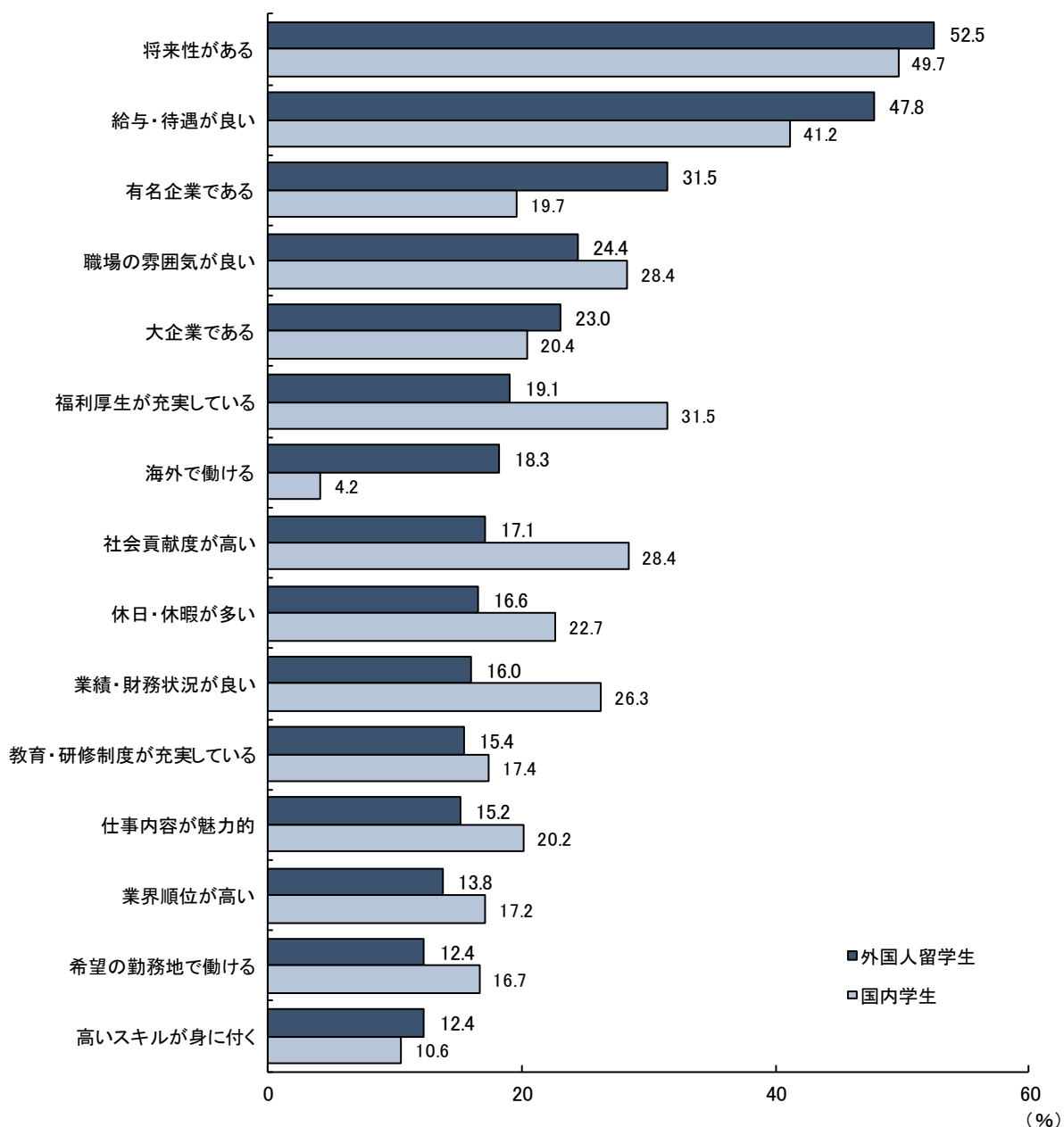
※40業界の中から5つまで選択
※国内学生は2021年3月調査

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が最も多く、過半数が選んだ(52.5%)。続く「給与・待遇が良い」も5割近い(47.8%)。上位2項目は、国内学生(日本人学生)と同じ順位だが、「給与・待遇が良い」は国内学生に比べ6.6ポイント高い。国内学生は、全体的にポイントが分散しているのに対し、外国人留学生では、上位項目に集中しているのが特徴的。

「福利厚生が充実している」は、国内学生では3割強(31.5%)が選び3位だが、外国人留学生では2割未滿にとどまる(19.1%)。「休日・休暇が多い」も1割台(16.6%)など、働きやすさへの関心は、国内学生ほど高くはないようだ。

就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15位まで)



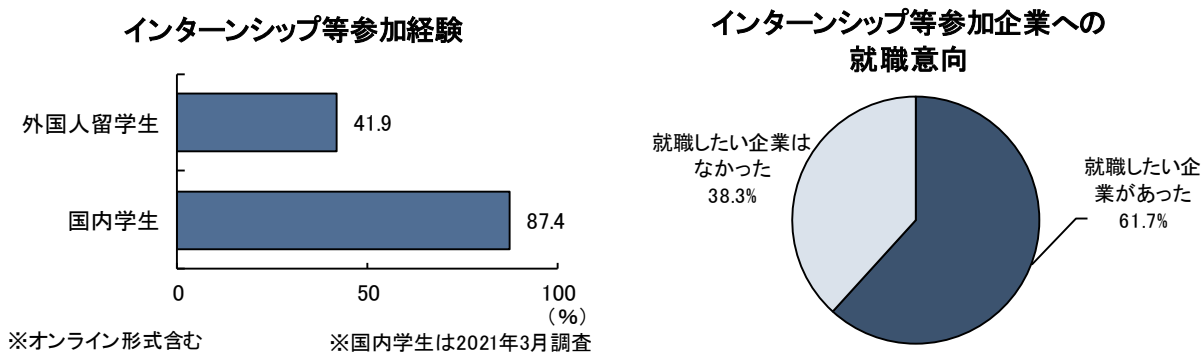
※全30項目のうち外国人留学生の上位15位まで

※国内学生は2021年1月調査

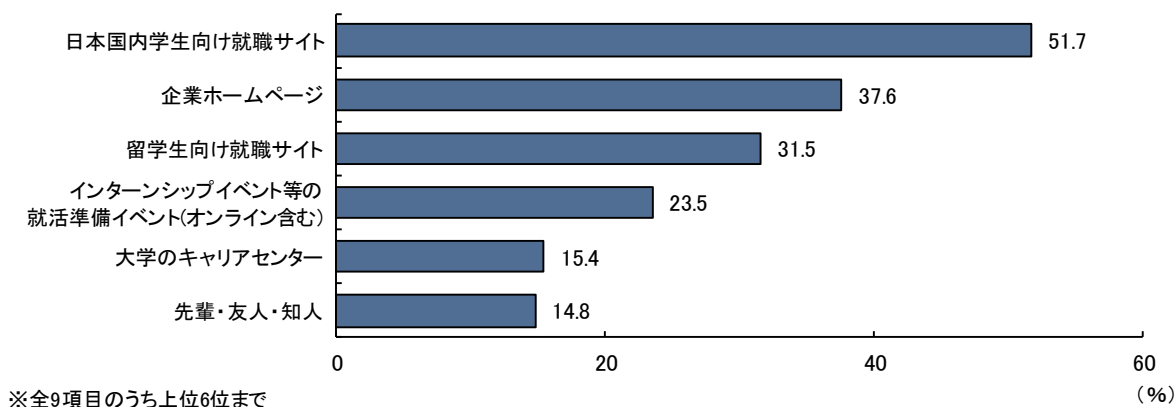
7. インターンシップ等 (※) のプログラム参加状況

日本国内でのインターンシップや仕事研究プログラム等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は約 4 割 (41.9%)。国内学生 (87.4%) の半分以下にとどまり、大きな差が見られる。しかし、参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は 6 割を超える (61.7%)。参加率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに一定の影響を与えていることがわかる。

※1 日以内のプログラムも含む

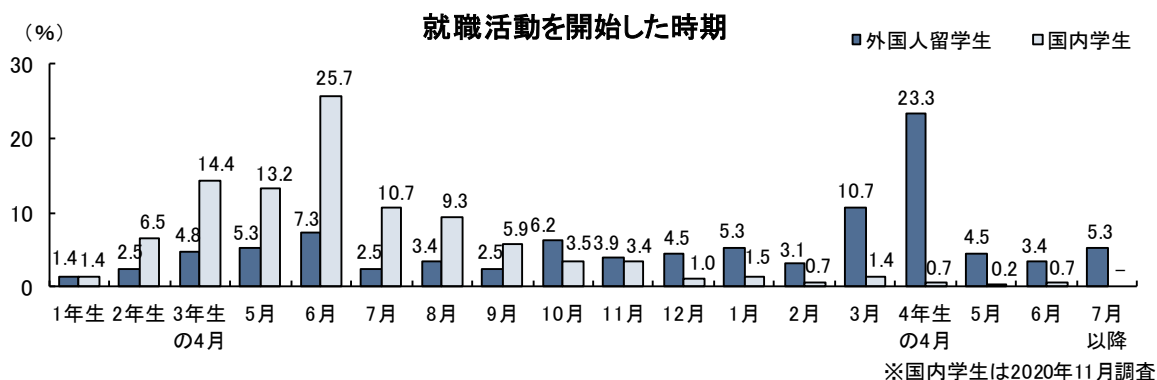


参加したプログラムを知ったきっかけ



8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4年生の4月」が最も多く (23.3%)、次に多いのは「3年生の3月」(10.7%)。採用広報解禁 (3月) 以降の合計は半数弱 (計 47.2%)。一方、国内学生は「3年生の6月」(25.7%) が最も多く、解禁前の合計は 97.2% に上る。国内学生に比べると、外国人留学生の動き出しは遅いことが表れている。



9. 7 月時点の就職活動量と内定状況 (※)

調査時点 (7 月) のエントリー社数は、平均 23.9 社。前年より 1.4 社増加した。企業セミナー、ES 提出社数、筆記・適性テスト、面接試験の社数、いずれも前年同期を上回る。オンライン中心の就職活動で、多くの企業を受けやすい環境だったことに加え、コロナ禍による危機感から活動量を増やした留学生もいたと見られる。また、国内学生の社数を上回る項目も多く、スタートは遅いものの、精力的に活動している様子が表れている。

就職活動の社数

	全体		文系	理系	【国内学生】
	(前年)	(社)			
エントリー社数	23.9	22.5	27.0	16.7	29.1
企業単独開催セミナーの参加社数	19.3	17.7	21.6	14.3	16.1
エントリーシート提出社数	19.1	17.9	21.3	14.4	16.4
筆記・適性テストの社数	13.9	13.5	15.2	10.9	11.4
面接試験の社数 (WEB面接含む)	8.2	8.1	9.0	6.5	9.2

※国内学生は2021年7月調査

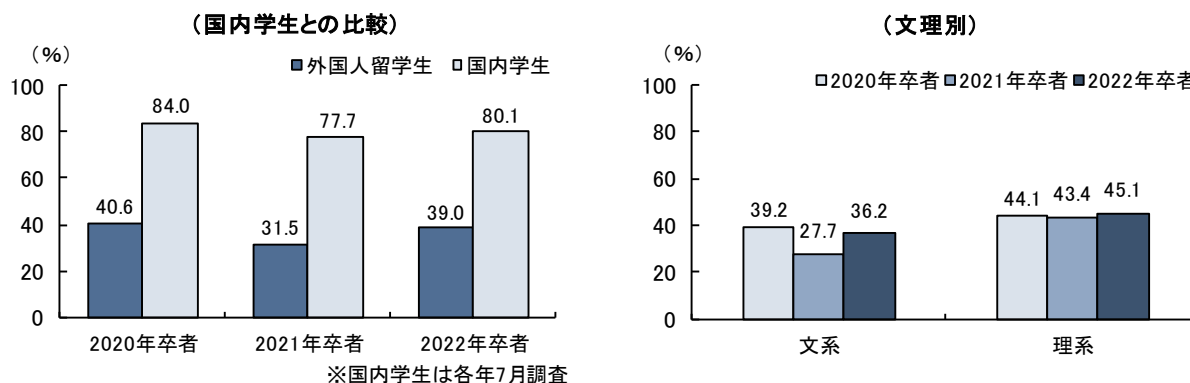
7 月時点の内定率は、国内学生が 8 割 (80.1%) であるのに対し、外国人留学生は約 4 割にとどまる (39.0%)。コロナ禍の影響で内定率が下がった前年同時期 (31.5%) と比べ、7.5 ポイント上昇したものの、コロナ前の内定率 (2020 年卒者 : 40.6%) をわずかに下回る。

文理別では、文系 36.2% に対し、理系 45.1% と、10 ポイント近い差が見られる。理系はコロナ前を 1 ポイント上回っているのに対し、文系はコロナ前を 3 ポイント下回る。

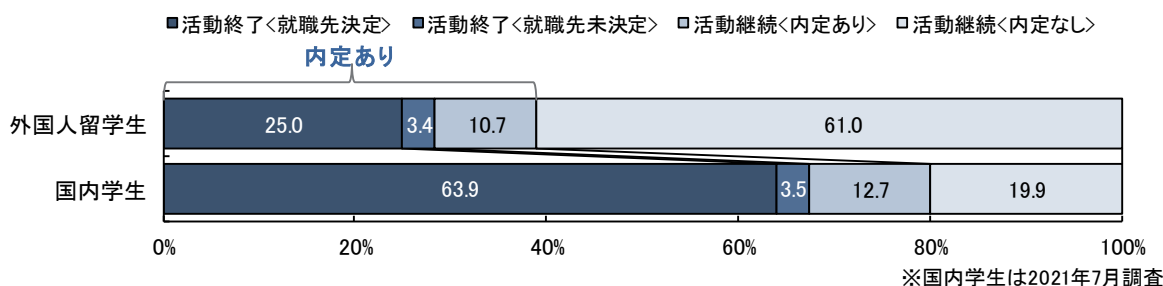
内定取得者も含めると、就職活動を継続している外国人留学生は 7 割強 (計 71.7%)。国内学生 (計 32.6%) の 2 倍以上に上る。就職活動の動き出し時期の違いにより、進捗にも顕著な差が生じている。

※「内定」には、内々定を含む

7 月時点の内定率



7 月時点の就職活動状況

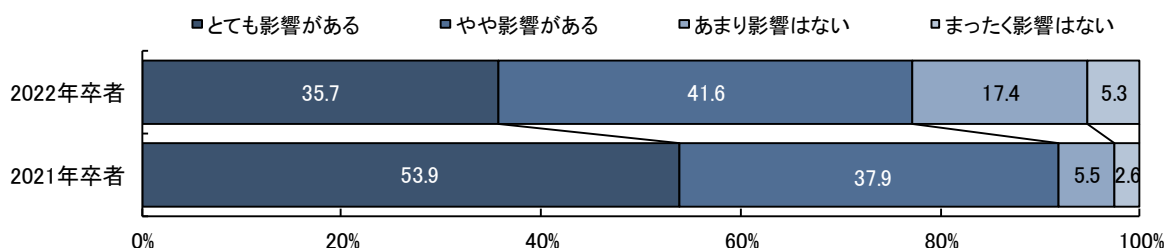


10. 新型コロナウイルス禍による就職活動への影響

新型コロナウイルスの感染拡大による、就職活動への影響度合いを尋ねた。「とても影響がある」(35.7%)、「やや影響がある」(41.6%)を合わせると、8割近く(計77.3%)が影響があると回答。前年調査(計91.8%)と比較すると大幅に減少したものの、何らかの影響があったと感じる外国人留学生が大半だ。

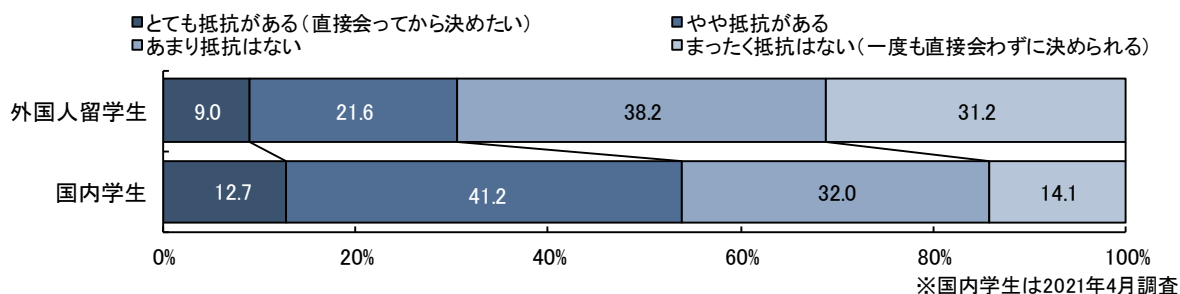
具体的には、志望業界・企業の採用数が減少したことや、就職活動がオンライン化したことなどが多く挙げられた。オンラインでの企業研究や面接に苦戦したという声がある一方、移動がなくなった分、効率的に活動ができたことを肯定的に捉える留学生も少なくない。

新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響



オンラインだけで選考が進み、企業の担当者と対面する機会が一度もないまま内定を得た場合に、入社を決断できるかを尋ねてみた。「とても抵抗がある」(9.0%)、「やや抵抗がある」(21.6%)を合わせると、「抵抗がある」との回答は約3割(計30.6%)。国内学生は過半数(計53.9%)に上っているの比べると、外国人留学生のオンライン就活への抵抗感は低いと言える。

内定承諾まですべてオンラインで進むことへの抵抗感



■ 新型コロナウイルスによる就職活動への具体的な影響

- 観光、小売、貿易などの産業の留学生採用予定人数が減ったことです。 <中国出身>
- コロナの影響で、第一志望のいくつかの会社が募集しないようになりました。 <中国出身>
- 面接、インターンがほぼオンラインになって難しかった。 <韓国出身>
- コロナだからほとんど説明会はオンラインでやるが、人数が多くて、質問できなかった。 <ベトナム出身>
- 面接などオンラインになったので、より多く会社の面接が受けられる。 <中国出身>
- オンラインで移動時間が減り、移動費もかからないで済んだので、どちらかという良かったと思う。 <韓国出身>
- コロナ禍で入国制限され、就活開始が他の人より遅くなりました。 <中国出身>
- 大学に行けないので、日本人の方と会話する機会が減り、日本語力が低下したと感じた。そして、情報収集に苦労した。 <香港出身>

11. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」だが、2 位以降に違いが見られる。外国人留学生の 2 位は「基礎学力」(36.0%)、以下「専門知識」「語学力」「異文化対応力」と続き、留学経験を通じて得た知識や能力を評価してもらいたいと考える留学生が多いことがわかる。

なお、海外で学ぶ日本人留学生も「異文化対応力」「語学力」など留学経験で培った能力が上位に挙がる。一方、国内学生は、「協調性」「信頼性」などが上位。

企業に評価してもらいたいこと(上位 10 位まで)

外国人留学生		国内学生		日本人留学生	
1	コミュニケーション能力 53.7	1	コミュニケーション能力 46.8	1	コミュニケーション能力 53.9
2	基礎学力 36.0	2	協調性 45.0	2	異文化対応力 35.5
3	専門知識 31.2	3	信頼性 28.4	3	協調性 33.1
4	語学力 30.9	4	社交性 26.6	4	語学力 31.0
5	異文化対応力 30.1		明るさ 26.6	5	基礎学力 24.6
6	熱意 25.0	6	熱意 25.9	6	信頼性 24.2
7	協調性 23.6	7	基礎学力 23.8	7	リーダーシップ 23.8
	信頼性 23.6	8	身だしなみ・マナー 22.5	8	社交性 22.9
9	社会的関心 21.1	9	一般常識 18.5	9	社会的関心 20.8
10	明るさ 19.7	10	リーダーシップ 17.4	10	明るさ 18.5

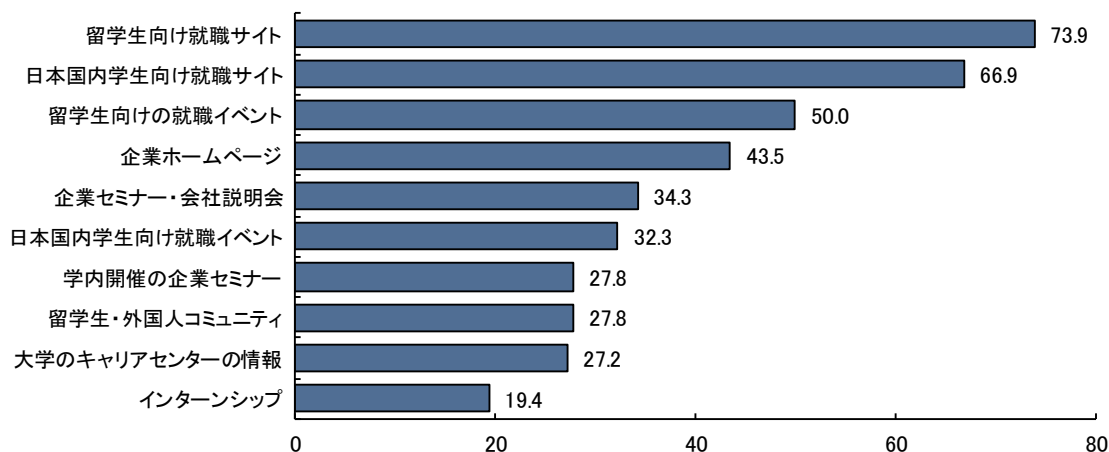
※全24項目のうち上位10位まで
※国内学生は2021年3月調査

12. 就職活動の情報源

外国人留学生が活用している就職活動の情報源について尋ね、上位項目をグラフにまとめた。「留学生向け就職サイト」(73.9%)が最多。これに「日本国内学生向け就職サイト」(66.9%)が続き、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「留学生向けの就職イベント」(50.0%)、「日本国内学生向け就職イベント」(32.3%)など、オンラインを含めた就職イベントで情報収集をする留学生も少なくない。

就職活動の情報源



※全17項目のうち上位10位まで ※オンライン含む

(%)

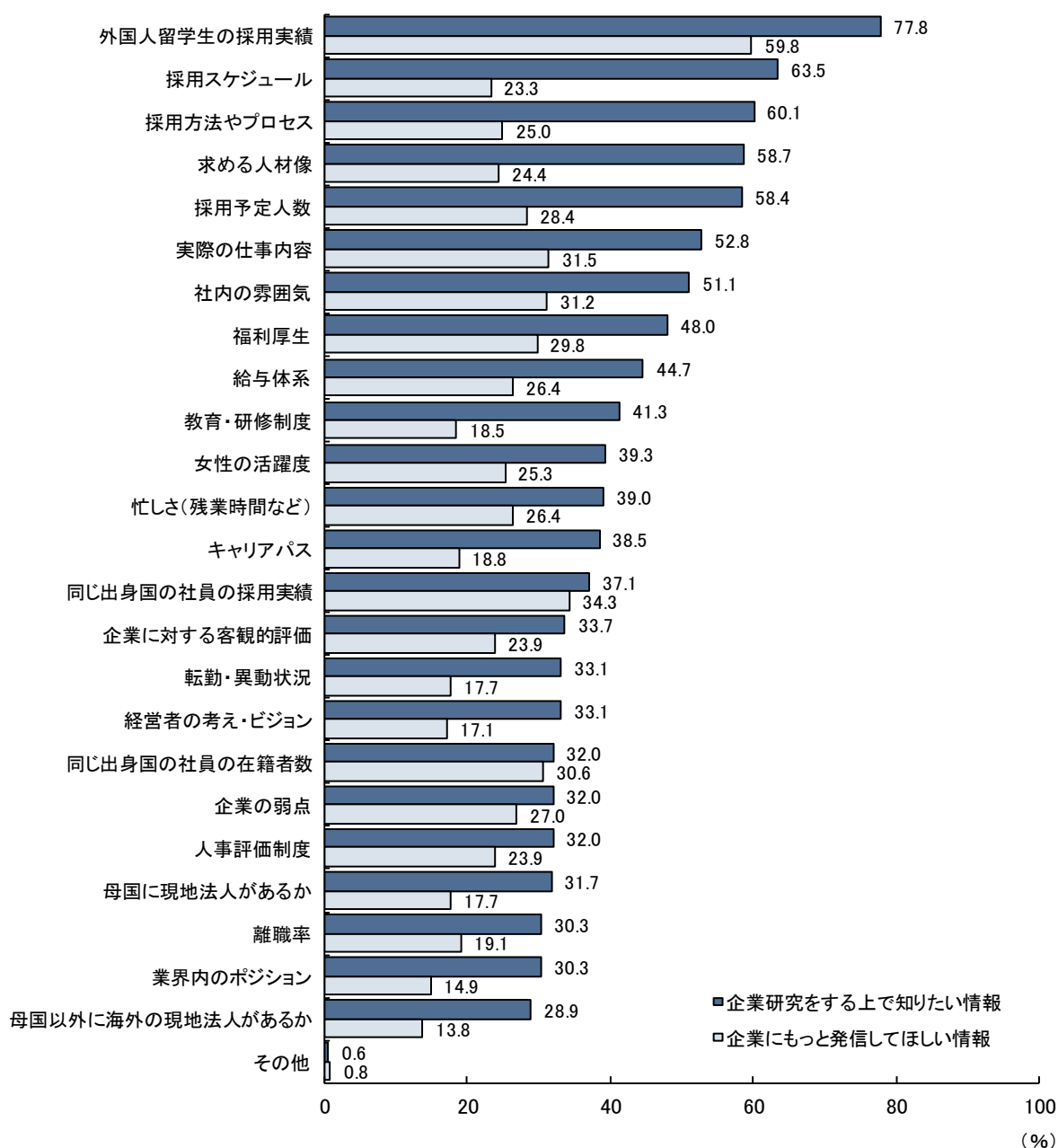
13. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究をする上で必要な情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」をそれぞれ尋ねた。

まず、企業研究をする上で知りたい情報は「外国人留学生の採用実績」が最も多く、8割近くが選んだ(77.8%)。これに「採用スケジュール」(63.5%)、「採用方法やプロセス」(60.1%)などの基礎的な採用情報が6割台で続く。

企業にもっと発信してほしい情報も、最も多いのは「外国人留学生の採用実績」で突出している(59.8%)。次いで「同じ出身国の社員の採用実績」(34.3%)が続き、外国人材の採用実績について、積極的な開示を企業に求めていることがわかる。一方、「採用スケジュール」や「採用方法やプロセス」など採用情報の数値は2割台にとどまり、企業側が意識的に情報発信していることがうかがえる。

企業研究での情報

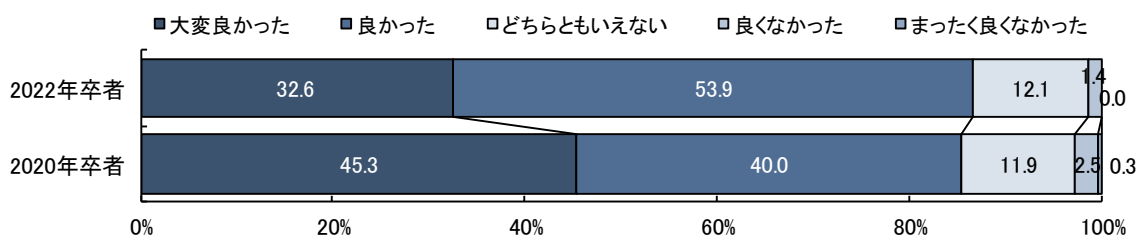


14. 留学の満足度

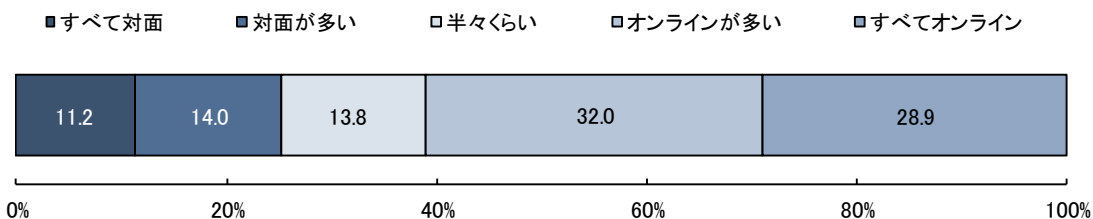
日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」（32.6%）と「良かった」（53.9%）を合わせて 8 割強に上り（計 86.5%）、満足度は高い。ただし、コロナ前に調査した 2020 年卒者と比較すると「大変良かった」が 10 ポイント以上低下している（12.7 ポイント減）。

コロナ禍以降の授業形式は、「すべてオンライン」という回答が 3 割近くに上り（28.9%）、「オンラインが多い」（32.0%）を合わせると、オンライン中心の授業が 6 割（計 60.9%）。学校に行く機会が限られていたことで、望んでいた留学生活を送れていない者も多く、こうしたことが、満足度の低下につながっていると見られる。

留学をした感想



コロナ禍以降の留学中の授業形式



■ 留学生活で困ったことや苦勞したこと

- コロナが始まる前は特になかったが、コロナ禍中のオンライン授業が本当にしんどいです。オンラインだと全く勉強している感じがしません。 <中国出身>
- ほぼオンラインで授業を受け、友達もできませんから、一人で日本に留学する生活がつらいです。 <中国出身>
- 緊急事態宣言が始まって、アルバイトがなくなったので、生活に困りました。 <ベトナム出身>
- 生活費が高いです。アルバイトしながら、研究に専念できません。 <中国出身>
- 間違った日本語を使って相手を誤解させたことがある。 <香港出身>
- 特に困ったことはなかったが、部活やサークル活動などが大学生活で一番重んじられると感じたので、最初はおかしいと思いつつ、それがまた魅力だと感じるようになった。 <韓国出身>

■ 就職活動で困ったことや苦勞したこと

- 今年にコロナのせいで、日本人も仕事がないので、外国人は、より厳しかったと思っている。 <ベトナム出身>
- 就活の開始時期が遅れてしまったので、募集している企業が少なくなった。 <中国出身>
- 情報収集の仕方やエントリーシートの書き方など、決まった型があって、それを知っているかどうかで就職活動の結果が大きく変わる。それが本当に企業の求めている人材とマッチしているか強い疑問を持つ。 <中国出身>
- 選考の段階も非常に多いし、筆記試験も難しい。また、面接回数も多いし、1社を受けるのに時間が非常にかかる。 <韓国出身>